

2023年度活動方針（案）

はじめに

WE21ジャパンは、WEショップを通じたリユース・リサイクルと海外支援から活動が始まり、25年を迎えました。困難な状況にある人々のために活動を行うという根幹は変わりませんが、この間には、様々な課題や、社会の変化に合わせて、WE21ジャパン・グループ(以下WE21グループ)全体で話し合い、WE21ジャパンはその形やシステムを変容させてきました。

この25年間WEショップは、環境に配慮した持続可能な生活だけでなく、国内外を問わず、様々な立場の人たちがともに認め合い自立できる優しい社会を目指し、地域の中で多様な価値を生み出してきました。近年では、WEショップを地域コミュニティ拠点ととらえ、地域の中で弱い立場にある人たちとのネットワークを構築していくという新たな価値も生まれてきています。

25周年を節目として、この価値をどう高めていくのか、WE21ジャパンの役割を改めて問い直す一年としていきます。

同時に昨年に引き続き厳しい財政状況を乗り越え、安心して事業継続ができるよう、組織基盤を整えていきます。特にWE21ジャパンの法人規模に見合った活動への整理を行い、その財源確保に力を注いでいきます。

I 特定非営利活動に係る事業

1 社会を変えるための市民力を高める活動

全体目標

WE21グループと協働して社会課題に取り組む平和チームを結成し、WE21ジャパンのミッションである環境、貧困、人権、平和を脅かす課題について、広く市民に伝えることができるようにする。

事業計画

1-1 自主活動チームの位置づけの見直しを行い、理事会のもとに、平和チームを結成する。

平和チームは昨年に引き続き、核廃絶アクションを中心に講座を開催する。NGO非戦ネットに参加し、「非軍事化にかじを切る」ための活動を協力して行う。

活動内容：統一地方選へのアクション、横浜ノースドック見学、WEショップでの語り部アクション

1-2 25周年記念行事として、15周年以降のWE21ジャパンの活動を記録するとともに、記念講演を開催し、改めてWE21ジャパンのビジョンへの共感を広げる機会とする。

1-3 環境、貧困、人権、平和を脅かす課題について、情報を発信し、声明や署名活動などをNGOや市民団体とともにネットワークして行う。

1-4 大学の講座や、見学の受け入れを積極的に行い、若い世代に、WE21ジャパンの実

践から学んでもらえるように働きかける。

2 資源のリユース・リサイクルを推進する環境事業

全体目標

- ・全国の企業、個人から届けられる寄付品を「WE21ジャパンオンラインショップ（以下オンラインショップ）」「イベント」「お助けゲット」などで最大限有効活用する。
- ・資源の循環による環境活動への共感者を拡大する。
- ・エコものセンターを拠点にした物流事業を滞りなく行う。
- ・WE21ジャパンの環境活動への共感者を増やすため、広報を強化する。
オンラインショップファースト画面でのアピール、ホームページ（以下HP）、Facebook、Instagram等のSNSを活用する。

事業計画

2-1 寄付品の有効活用

全国から届けられる寄付品を「オンラインショップ」「イベント」「お助けゲット」等に振り分け、スムーズな運用で最大限生かすことができるよう管理する。

1) オンラインショップ事業

オンラインショップの経営安定を目指す。そのために情報分析を基に販売戦略を立てる。今年度は地域参加を呼び掛ける。年度ごとに点検評価を行い、次につなげる。

2) イベント開催（倉庫deバザー、着物フェア等）

全国の企業、個人から届けられる寄付品を有効活用するため、イベントを開催する。

大規模イベントが開催できない中、資源の有効活用及び財政難からの脱却の位置づけで開催してきた「倉庫deバザー」は、一定の効果を上げることができ、今年度は継続し開催する。

また、着物に特化した「着物・リメイクフェア」を継続開催するが、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、今後は現イベントの整理をし、別のスタイルでのイベントも模索する。

3) お助けゲット

資源循環の具体を実施している「WEショップ」に全国からの寄付品を分配する。

2-2 資源循環への取り組み

羽毛製品、廃食油、めぐりケータイの回収、古本のリサイクルを行う。

2-3 エコものセンターの管理運営

- 1) 配送の労働協同組合ワーカーズコレクティブ・キャリーと引き続き契約し、エコものセンターの管理運営を行う。

2) エコものセンターでの作業増加に伴い、ボランティアを募り、WE21ジャパンの資源循環活動をさらに進めていく。

活動内容:オンラインショップ、イベント、グリーン・ダウン・プロジェクト (GDP)、めぐりケータイ、チラシまき、集計など。

3) エコものセンターの空きスペースの増加に伴い、WE21グループでチームを作り早急に対策を講じていく。物流機能以外の活用方法も模索する。

3 アジアの市民の力を高める民際協力事業

全体目標

- ・森育ちのしょうがパウダー(以下しょうがパウダー)フェアトレードが、社会情勢や災害等が起きても生産地の自立した活動を支えられるよう、フェアトレード価格を再構築する。
- ・慶南地域自活センターとの友好協定に基づいた交流を継続し、対面交流を中心とした活動を実施する。

事業計画

3-1 アジア地域を中心に、生活者・市民が主体となる地域開発を進め、顔の見える関係作りから信頼と連帯を築く。

- ・しょうがパウダーのフェアトレードを推進し、フィリピンベンゲット州カパンガン郡の生産者の地域保健事業、生計向上を支援する。取り組み本数：2000本
- ・事業開始から10年がたち、価格や仕様などの再検討を行う。11月ごろには、現地に赴き、生産者の活動調査や価格改定のための聞き取りを行う。
- ・WE21グループによる計画購入の継続のため、ジンジャーティミーティングやしょうがパウダーのフェアトレード講座などを実施し、ショップでの共感や販売につなげる。
- ・購入者や販売者を対象として、講座、オンラインイベント等を実施し、商品の理解を深めることで販路拡大を目指す。
- ・開発教材「今日はフェアトレードの日!？」を活用し、フェアトレードの意義、価値を共有する活動を開発教材ワーキングチームと共に行う。開発教育協会主催d-1ab2023や大学などでのワークショップを行っていく。

3-2 慶南地域自活センターとの友好協定に基づき、市民レベルの草の根の交流を深める。

- ・引き続き、2団体による地域間交流のコーディネートを行い、ネットワークを強める。
- ・9月に慶南地域自活センター職員による日本研修旅行の受け入れを行う。

3-3 WE21グループの民際協力一覧を作成し、活用する。

4 市民発の情報機能を高める事業、及び前項1, 2, 3に関する広報活動

全体目標

WE21グループの総合力を生かした対外的な広報活動を行う。今年度はメールマガジンを再開、活動紹介リーフレットの内容の改訂を行う。SNS、HPと共に活用し、WE21グループへの共感者を広げ、担い手の拡大を目指す。

内部広報については、各地域NPOの特色を活かした自立を促し、WE21グループとして連携することで出来る発信力を高めるため、WEショップ間の情報の共有を活発に進める。

事業計画

4-1 HP・SNSを活用する。HPは情報更新やレポート発信を通じてWE21ジャパンの活動意義を伝える。SNSはタイムリーな情報発信を行い、日々の発信から興味を持ってもらうことで、イベント参加やメールマガジン登録につなげる。

4-2 数年前より停止していたメールマガジンを再開する。HP閲覧者、SNSフォロワーより詳細な活動紹介・報告を掲載し、共感の度合いを深める。これまでにWE21ジャパンに関わりのある方に加え、イベント参加者、物品購入者などを対象に新規登者を拡大する。

4-3 2022年度年次報告書を作成する。前年度の報告書作成時の課題点、振り返りを踏まえ、内容や項目を一部整理する。読み手に活動が伝わり易いように改善する。

4-4 活動紹介リーフレットのデザイン改訂を検討する。

4-5 かわら版を毎月発行する。WEショップ同士がセール情報や、運営の工夫やアイデアを交換し合える場とし、WE21グループ内部のコミュニケーション強化を図る。基礎研修を実施する。

4-6 WEフェスタは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年度より開催を中止している。昨年度着物・リメイクフェアの開催により、実会場イベントの意義を再確認したことからも、開催規模などを検討して、再開の可能性を探る。

5 その他、定款第3条の目的達成に必要な事業

全体目標

財政基盤と組織基盤を強化し、「市民力を高める活動」に注力していくための地盤を固める。

事業計画

5-1 WE21ジャパンの収入は、WE21グループからの物流受託事業、ネットワーク推進費の2つの受託事業が約1/2を占めている。受託事業外の収入と支出のバランスを見直し、市民力を高める活動を中心にした組織への見直しを行う。

5-2 組織基盤強化として、WE21グループと連携のための協議を進める。

5-3 財政状況の改善のため、会員や寄付者拡大に努めると共に、オンライン事業や各種イベント等の収益事業の安定を図る。寄付計画を立てるとともに、最大の固定費であるエコものセンターの活用の見直しを行い、黒字転換により長期借入金の返済契約を滞りなく進める。

5-4 環境、貧困、人権、平和の課題を広く市民に伝えるため、WE21グループに理事会に設置する平和チームへの参加を促し、環境事業講座や、貧困や平和、人権などにかかわる学習会・講座などを連携して実施する。

- ・ WE21グループの活動に有益な情報を収集・発信をできるよう、WE21グループ代表メーリングリスト(緊急メーリングリスト)をさらに活用する。
- ・ 日本チャリティショップネットワーク(以下JCSN)、(特非)国際協力NGOセンター(以下JANIC)のネットワークに参加し、WE21グループメンバーに情報をつなげる。
- ・ WE21グループの研修の機会を作る(基礎研修・会計学習会・労務学習会などリスク管理に関するもの)

5-5 企業、団体、協同組合、大学、行政、市民団体との連携を推進し、情報を集め協力して課題解決力を高める。

- ・ (特非)横浜NGOネットワーク(YNN)、JCSN、JANICなどに参加し、NGO同士の情報共有と連携を進める。
- ・ (特非)参加型システム研究所と連携し、市民セクターの価値を伝えるとともに、「研究フォーラム」を実施する。
- ・ (公財)生き生き市民基金、遺贈・寄付相談市民ネットと寄附社会を広める活動を行う。昨年に引き続き、遺贈・寄付相談市民ネット・(特非)地球の木と連携して市民向けの「遺贈・寄附学習会」を開催する。
- ・ 「東日本大震災復興支援・ネットワーク神奈川」の幹事団体として、11月に開催される「東日本大震災・復興まつり」に参加し、被災地とのネットワークを強める。
- ・ 生活クラブエンパワメント連絡会、(公社)フードバンクかながわと連携し、貧困問題に対する理解を深める。